

厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和元年7月31日(水)
18時00分開会 19時26分開会
- 2 会議場所 役場3階第2委員会室
- 3 出席議員 委員長：高橋政悦 副委員長：中河つる子
委 員：川上 均・鈴木孝寿・西山輝和・中島里司
- 4 事務局 事務局長：山本 司 事務局次長：宇都宮 学
- 5 説明員 北海道清水高等学校振興会
会長：梶 竹征
副会長：河原崎周一
奥山 崇
岡崎 修
参与：三澤史佐子(町教育長)
事務局：山内章裕(清水高等学校教頭)
神谷昌彦(町教委学校教育課長)
- 6 議 件

(1) 所管事務調査について
・高等学校振興に対する支援策について
- 7 会議録 別紙のとおり

委員長（高橋政悦）：只今から厚生文教常任委員会を開会する。本日の議件は、所管事務調査「高等学校振興に対する支援策について」となっている。

お忙しい中、説明員として、北海道清水高等学校振興会の役員及び事務局の出席をいただき感謝申し上げます。

では議会側の出席者について、自己紹介を願う。

（厚生文教常任委員会委員6名の自己紹介）

委員長：次に、北海道清水高等学校振興会出席者の紹介をお願いする。事務局神谷課長（事務局神谷昌彦学校教育課長から出席者7名を紹介）

（1）所管事務調査「高等学校振興に対する支援策について」

委員長：早速、資料に基づき説明を願う。事務局。

事務局（神谷）：（提出資料1から資料8の説明あり。）

委員長：これより、説明のあった内容について、質疑を受ける。鈴木委員。

鈴木委員：中学校訪問による清水高等学校紹介の実施状況は。

事務局（山内章裕清水高校教頭）：今年は7月から実施しているが、芽室町、帯広市、音更町、釧路市など合わせて24校程度訪問する予定である。

鈴木委員：学校訪問の際、パソコンを使ったプレゼンテーションやパンフレットの配付をされているが、資機材の確保やパンフレット作成経費など十分に足りているか。

事務局（山内）：学校訪問は清水高等学校教諭の総務部が担当し、在校生の様子や卒業後の状況を説明している。振興会からの費用でパンフレット等を用意していただき助かっている。今年は、高校のPTA会長や副会長にも同行してもらい訪問活動を行っている。

委員長：他にないか。資料に関して特になければ、高校振興に対する支援策についての意見を受ける。川上委員。

川上委員：振興会の課題は。

事務局（山内）：6月に振興会の総会を行ったが、設立当初からこれまで組織体制が変わっていなかった。30年度入学生から3間口となるなど本校を取り巻く状況が大きく変わったこともあり、会員の構成をこれまでより拡大した。本校生徒の割合は、地元4割、町外6割なので、町外も視野に入れる体制を整えた。インターンシップの受け入れ先や卒業後の就職先など町内外の事業者や個人も含め連携を取り、支援の広がりにより生徒の確保につながるよう、規約の見直しを行ったところである。

振興会への補助金を昨年度200万円から400万円と大きく増やしていただき、道内高校で唯一Wi-Fi環境を整備してもらうなどICT教育の定着にも非常に役立っている。また、通学のバス路線の確保充実に向けて情報収集するなどし、バス会社への要請活動の検討を行いたいと考えている。

平成25年度から例年12月に清水高校を語る集いを開催している。昨年は、生徒が清水町の未来を考えるなどの発表を行うとともに、卒業生にも参加してもらい、高校でどう学びそれが社会でどう役立っているかについて地域の方々や帯広からの中学生にも聞いてもらい、本校への興味や関心を高めてもらう機会となった。道内でも珍しい取り組みのようで、先日の公立高等学校配置計画地域別検討協議会でも十勝教育局から依頼があり、一部を紹介してきたところである。

現在、こういった取り組みを振興会として進めているところである。

川上委員：ICT教育はますます重要とされているが、高校として特に力を入れている教科は。

事務局（山内）：ICT教育は、数学が中心となるが農業関係の食品分野でも力を入れている。どの教科でも人前で話をするのが最も重要であることから、国語や社会の科目でもコンピューターを使ってプレゼンテーション能力を高めるなどに力を入れている。理科などでも課題研

究で、仮説を立てながら解決策を発表するなど、プレゼンという場を様々な教科で持ちながら、ICT 機器を活用している。

食品分野の学びは魅力的な系列であるが、施設の関係上そこで学べる生徒は 16 人である。力を入れたいが、収容できる生徒は 16 人のため、もっと多くの生徒が入学してもらうためには、その他の系列の人文科学、自然科学に興味を持ってもらい、生徒を確保する必要がある。

川上委員 : 三笠高校は単科高校であるが、レストラン研修施設を開設している。それに似たような施設整備などにより定員を増やすことも課題として考えられるのか。

事務局 (山内) : 食品分野の設備に関する予算は確保され、内容も充実している。スペース的な問題と実習に伴うため教科担任が教える人数は限られてくることから、教員の配置と施設の規模の問題があり、定員を増やすことは難しい。

鈴木委員 : 学校説明会や ICT 教育に力を入れている。生徒が集まらないのは、学校に魅力があるからなのか。それとも、物理的に無理な問題なのではないかとも感じる。現在募集定員は 4 間口だが、現実的には 3 間口で 12 人少ない 108 人の編成となっている。この方向で行くと 3 間口になることが予想されるが、3 間口という学校は実際にはあるが、基本的には無くいずれは 2 間口になる。一般論で結構だが、魅力の問題なのか、物理的な問題なのかどう捉えているか。

事務局 (山内) : 私の前任地は鹿追高校で 2 年勤務していた。その時は、清水町は中学生 70 人しかいないのに高校は 4 間口を維持していて、すごく良く頑張っているなという印象を持って見ていた。

鈴木委員 : 今、高校はアイスホッケー、サッカー、演劇なども頑張っているが、部活動だけでは魅力を感じない時代であるが、先生方は入学者を増やす方策としてどういった方法で魅力を高めることが大切と考えるか。

事務局 (山内) : ICT 教育やアクティブ・ラーニング (能動的学修) などを進めることも必要であるが、教職員は、日常の授業をしっかりと行い生徒に力を付けてもらうのが基本であり、そのことで生徒をひきつけたいとならない。部活動に対する教職員の考え方は、学校における働き方改革北海道アクションプランで制限されていることもあり、温度差がある。本校の場合、人事異動でも出ていくばかりでなかなか新しい職員は入ってこない中で、部活動の指導意欲にばらつきがあるが、中学生にとっては部活動も高校生活の魅力の一つであることは間違いないため、勤務時間内でしっかりと指導するよう話し合っている。

鈴木委員 : 帯広、芽室から来る生徒が多い中で、バスと JR を比較するとバスは運賃も高いため JR の通学が多いと思うが、運賃を助成するなどすると通学しやすくなるのかと考えることもある。市内の私立に行くのと地方の公立に行くのとでは、費用負担も変わらないのではないかと話もある。この部分を、どのように感じているか。

事務局 (山内) : 経費負担では、公立も私立も変わらない。私立で特色がある高校があれば、そこに通わせるという親も増えてきている。通学の足がしっかりと確保され、その費用負担が助成などで安価になることは本校選択の際の魅力にも繋がると感じる。

委員長 : 町教育委員会と高校振興会が協議して 400 万円の予算措置をしたが、振興会からの要望に対して教育委員会で減額等を行ったものはあるのか。また、振興会で予算があれば魅力的な高校振興を行うため取り組みたい事業があるのか伺いたい。

事務局 (神谷) : 高校振興会からの要望を全て予算化したもので、平成 30 年度はチャレンジクラス設置に伴うインターネット講習の環境整備などを進めるため増額した。

委員長 : 予算額は、200 万円から平成 30 年度は 400 万円、そして今年度は 420 万円と年々増額した上で対応しているが、来年度仮に 1,000 万円の要望があった場合、教育委員会としてどう考えるか。高校振興策として、大きな施策展開により改善を図られる可能性もあるのではないか。

振興会参与 (三澤吏佐子町教育長) : ご存知のとおり清水高校は道立のため、町教育委員会として支援を行うにしても限界がある。予算があれば、振興策が打てるかといわれれば難しい。教育委員会内に若手のプロジェクトチームを置き、振興策について検討している。すぐに対応可能なものもあるが、町が独自で動くのは難しく、高校側の了解のもとに振興会として行

動することとなる。

本別町の本別高校、大樹町の大樹高校も、本町の高校を含め間口減の可能性があるが、その高校の支援や間口維持の活動に関して、よその町は町、教育委員会、議会、振興会、PTA、学校が一つのコンセンサスをもって一緒に行動をしている。本町は、なかなかそこが埋まりきらないのが現実だと思う。そこにもどかしい思いがしている。この機会なので、議員に聞いていただきたいのは今頑張らないと、すぐに3間口そして2間口となるのが目に見えているので、力を結集して間口にこだわっているだけではなくて、定員のことがある。160人定員をしっかりと見据えていく学校といやそうじゃなくても良いと考えるところの違いというのをやはり共通の理解として持って、今頑張るべきだと私は思う。そういう中で議会、振興会、学校、教育委員会も一つの目標に向いていく方向性を持ちたい。

委員長：以前から清水高校には、売店がない。学食もなく、学校は外出禁止なので弁当を忘れると昼食を用意するすべがないこととなる。これは、高校の決まりでありどうしようもないのかもしれないが、生徒からするとマイナスの要因でもあるので、何か対応策を考えられているのか。

事務局（山内）：昨年の生徒総会で話題となり、生徒会で動くとのことであったが、なかなか進んでいない。今、自動販売機で軽食的なものを設置できないかの検討をしている。また、教育委員会からは町内のパン屋さんが週何回かでも販売に来ることができるかもしれないとの話がされており、遅いながらも動いてはいる。

中島委員：地元の高校のこととして、地域が一つになった活動が大事である。魅力ある高校として支援するために、高校振興会が中心になって知恵を絞り進んでいくべきと考えるが、振興会で特に検討していることがあれば聞きたい。

振興会会長（梶竹征）：振興会で魅力ある学校づくりに知恵を出して間口維持に向けて頑張っていきたい。

中島委員：教頭先生から先ほどよく4間口を維持してきたとの発言があった。総合学科になれば、間口はいち早く3間口になっていたと思う。地域の協力もあるが、教職員の努力もあったと感じている。今後の支援は、振興会が中心となって教育委員会そして議会が一つになる道筋を考えていく必要があると考える。

振興会参与（三澤）：清水高校の魅力をアピールしながら、地域の高校として存在を維持することが大切である。高校は道立であるので、西部十勝全体を見据えた中での高校というスタンス、存在意義がある。町にとっては、地域の高校であり、地域の子どものための高校教育を維持するための場所である。保育所、幼稚園から小・中、高校までが整っているこのことは、欠くべからざるものと思っている。町の教育委員会としては、よその高校に行かなくても地元でしっかりと学んで社会で巣立っていける環境を維持していくことを念頭において、議会、町民、振興会にも連携をお願いしたい。

委員長：これまで出された意見を基に、支援体制や支援するポイントを当委員会でまとめ結果を振興会へお伝えしたい。本日はこの程度の聞き取りとしてよいか。河原崎副会長。

振興会副会長（河原崎周一）：総合学科に転換し20年が経過した。この間少子化に伴う入学者の減などもあり、手探りで支援策に取り組んできた。役員構成の変更に伴い、先日の三役会議で農協や商工会にも入ってもらい町や議会を含め、みんなで支援を盛り上げる方向が確認された。魅力ある高校とは、難しいことではあるが、小さなことでも子どもたちのためになることをやろう。補助金をいただきテキスト代や資格検定料の助成など、父母の費用負担にならないよう一つひとつの取り組みを進めてきた。この先も、課題解決は難しいことではあるが、振興会に対する協力をお願いしたい。

振興会会長（梶）：これまで振興会として、様々なことを考え改革しながら前進はしてきた。学生の学力レベルも上がってきており、12月の高校を考える集いで生徒やOBから、前向きな意見も多く出されてきている。答えはないが、幅広い意見を聞きどこまで取り入れていけるか振興会内で議論し知恵を出していくので、今後もよろしく願いたい。

委員長：会長、副会長にまとめていただいたが、今話されたとおり今年の総会で変わった役員の方とともに私たち議会も力添えができるものを探していきたい。この会議については、当委員会でまとめるが、さらに支援内容を深めるために先進事例などがあれば調査するなどし、

報告書としてまとめたい。

川上委員：教育長から話のあった、職員のプロジェクトでまとめた内容は聞かせてもらえるのか。

振興会参与（三澤）：高校に迷惑のかからない範疇で町教育委員会が単独で行ったものとして、中学生へのアンケート調査が終了し結果がまとまっている。その中で、清水高校を知ってもらうためにどうしたら良いかという問いに対し、中学生はとにかく情報の発信をしてほしいという要望であった。町が振興会を通して清水高校生にどういった支援をしているのかを中学生にも親にも知ってもらうために、パンフレットを作成中である。高校との協議はこれからである。教育委員会の直轄下にある職員が、プロジェクトで中心的に動くことに対し、道立高校としての立場もあり受け止めてもらうのがなかなか難しい。教育委員会としては、振興会の組織改革の中でも振興会に一つの団体として加わって、振興策を実働部隊的に進めるためにプロジェクトを存在させているが、町や町教委が道立の高校の運営に介入するというぎりぎりのラインであるのも確かであり、その難しさを感じる。高校の教頭先生からの話では、鹿追町で導入している中高一貫教育は道の事業であっても、町や町教委が直接的に係わることには問題がないというスタンスであるが、清水高校の場合はあくまで道立高校のため教育委員会が表に出てくることに関しやはり難しい部分がある。そういう細かい手続き上の問題で、もどかしい思いをしている。

西山委員：先ほど教頭先生からあった食品分野で16人しか受け入れられないのは、施設の規模が小さいということで、これを増やそうとしたら教室が足りないということか。それとも機械や器具が足りないということか。

事務局（山内）：教室が足りないが、拡張することも難しい。

西山委員：空き教室を使うわけにはいかないのか。

事務局（山内）：教室の配置もあり難しい。

委員長：以上で、閉めさせていただく。

中島委員：委員長発言がある。

委員長：中島委員。

中島委員：教育長から道立高校だからとの発言があったが、そもそも総合学科の導入時は、町教委からの要請を受け町教委が検討に入ってくれたそのことを申したい。

鈴木委員：今日、いやな発言を聞いた。教育委員会は、振興会の事務局である。ここが先頭を切らなければならぬところで、清水はバラバラだからやれないとの発言が先ほどあった。それが一番嫌いだ。縦割り行政の本当に嫌なところを見たので、そこは苦言を言う。振興会が一生懸命、会長や副会長が頑張ったってそれはバックアップの教育委員会があってからこそのこと。それを邪魔することは議会もありえないので、自信を持ってまっすぐ進んでほしい。できないことばかり考えていたら、これまでの行政と全く同じなので前向きに取り組んでほしい。

振興会参与（三澤）：今の話、私自身も残念に思う。私が教育長就任時に、今まで道立高校に対して町教育委員会が直接係わることは難しいということを前教育長が答弁してきたことに対して私は地域の学校として、清水高校を直接的に教育委員会がバックアップする体制をつくらと宣言した。その思いは今も変わってなく、ますます大きくなっている。そういう中で私が教育委員会の若手のプロジェクトを立ち上げ、教育委員会が一つになって職員ができることを十分発揮して形のある支援をしたいとの思いでそのようなことをしている。正直申し上げて、今教育委員会は小学校中学校のことで精一杯、やることが山ほどある。高校のことを言ってもかまっている暇がないくらい大変。そういう中でなぜ、職員たちに業務上の時間を使ってこの高校振興のことに当らせているかというのは、それだけ清水町の教育全体を考えた上で、清水高校の存在が大きいからである。だから支援をお願いしたい。そういう中で、私や教育委員会の職員の思いがあってもどうしてもすり合わせのできないので困っている。だから力をお貸してほしい。よろしくをお願いしたい。

鈴木委員：先ほど、清水はバラバラで困っているとの言い方もされたので、言わせていただいた。できないのであれば、まちづくりでもあり教育委員会できないのであれば例えば企画と連携してやるとか、町全体でやるべき問題である。申し訳ないが、教育長は町長と並んで理事者ですからまちづくりに関して責任を持ってやっていただきたい。皆さんから協力して

もらえていないからできないぐらいの言い方をされると、ではどうしたら良いかということになってしまうので、自分の発言を整理してほしい。

振興会参与（三澤）：皆さんの協力がないからできないと私が申し上げたか。

委員長：この場でのやり取りは、結論が出ないことなので困る。教育長はやれないなどとは言っていない。やるために協力願うとの発言と、話の流れの中で思いが伝わらなければバラバラに感じるとの話だった。私はそのように受け取った。高校振興会に対する支援策については、当委員会で整理することであるので、この会議はこのへんで閉じて良いか。

（はいの声あり。）

委員長：高校振興会の皆様、暑くて厳しい環境の中、会議に参加いただきありがとうございます。これで、振興会の皆様は退出願います。ここで休憩する。

【休憩 19：20】

【再開 19：22】

委員長：再開する。まとめを今回の調査で終了するのか、さらに深く調査するのかについて意見を伺う。

鈴木委員：教育委員会でプロジェクトチームを組んで取り組んでいるとの事なので、その部分も聞く必要がある。そのため、継続して調査する必要がある。

委員長：只今、継続調査してはどの意見が出されたが、いかがか。

委員長：引き続き調査を行い、今回出された問題点の絞込みやそれに対する対応策、議会として高校振興会の組織改変についても承知していないため、それらについても合わせて行うこととして良いか。

（はいの声あり）

委員長：では、そのようにする。次回の調査予定及び内容は、事務局に項目をリストアップしてもらうとともに、8月末までに今日の議事録を配付し、次回の常任委員会で今後の調査内容を考えてくることとする。9月定例会までにまとまらなければ、12月定例会までの継続審査とする。その他、意見があれば伺う。
なければ以上をもって、厚生文教常任委員会を閉会する。

【閉会 19：26】